報道関係各位

2026.11.18

アストンマーティン ジャパン

# アストンマーティン・レーシング、
# 2027 年ダカール・ラリーへの初参戦で新たな挑戦へ

- **アストンマーティン Dreadnought、3 台体制で挑むダカール・ラリーへの挑戦を牽引**
- **アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1®チームのドライバーで、2 度の世界チャンピオンに輝いたフェルナンド・アロンソが、Dreadnought とともにダカール・ラリーに復帰**
- **アロンソに、FIA 世界ラリー選手権 9 度の王者セバスチャン・ローブと、現 FIA 世界ラリーレイド選手権王者ルーカス・モラエスが加わり、あらゆる地形を舞台とする唯一無二の戦いに挑む**
- **英国のモータースポーツ専門企業プロドライブが、2027 年ダカール・ラリーに参戦する Dreadnought のラリーレイド車両の設計・製造・運営を担当**
- **アストンマーティン、ポルトガルから出発しモロッコのマラケシュでゴールする 12 ステージからなる大会で、サハラ砂漠の過酷な環境に挑む**
- **Dreadnought の参戦は、モータースポーツの最高峰に挑み続けてきたアストンマーティンの輝かしい伝統を継承**



2026 年 11 月 17 日、英国ゲイドン：英国のウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランド、アストンマーティンのモータースポーツ部門であるアストンマーティン・レーシングは、究極のオフロード競技への参戦により、これまでで最も過酷な挑戦の一つに臨みます。その舞台となるのが、2027 年ダカール・ラリーです。アストンマーティンのデジタル空間専用に開発した軍用仕様車両「Dreadnought」を競技用に仕立てたモデルが、来年 1 月、3 台体制でサハラ砂漠での戦いに挑みます。ドライバーには、FIA フォーミュラ 1®世界選手権で 2 度のチャンピオンに輝いた現アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1®チームのフェルナンド・アロンソ（スペイン）、FIA 世界ラリー選手権 9 度の王者セバスチャン・ローブ（フランス）、そして現 FIA 世界ラリーレイド選手権王者ルーカス・モラエス（ブラジル）が名を連ねます。

究極の戦闘対応型軍用車両として、あらゆる制約にとらわれず、新作『Call of Duty®:Modern Warfare® 4』専用に構想されたアストンマーティン Dreadnought は、最も過酷で容赦のないデジタル空間の環境を制するために設計されました。そして今、その構想は、世界で最もアイコニックなオフロードレースの最前線でトップ争いを繰り広げるために専用開発された、極めて高い競争力を備えるラリーレイド車両として現実のものとなり、不屈の闘争心を貫くアストンマーティンの姿勢を最も鮮烈に体現しています。

Dreadnought の国際競技デビューは、アストンマーティン・レーシングにとっても国際的なラリーレイドへの初参戦となります。ラリーレイドは、選手とマシンが一体となり、競技者の精神力を極限まで試す過酷な環境下で、極めて長い距離を走破しながら、想像を絶する険しい地形を克服することが求められる競技です。

ダカール・ラリーほど、車両の強度や堅牢性、耐久性が厳しく試されるレースは世界にありません。49 回目となる 2027 年大会は、1 月 9 日から 23 日まで、ポルトガルから出発してモロッコへと続く全 12 の妥協を許さないステージ（うちスペシャルステージ 4,341km を含む）にて開催される予定です。

アストンマーティンの CEO、エイドリアン・ホールマークは次のように述べています。「アストンマーティン Dreadnought は、どのような地形でも、極限の状況下で圧倒的な性能を発揮し、あらゆる困難を乗り越えて使命を果たすために構想されました。そして今、エンジニアリングパートナーであるプロドライブとともに、世界のモータースポーツで最も過酷な舞台である 2027 年ダカール・ラリーでこのビジョンの実現に挑みます。先駆的なコンセプトを掲げて前進し、これまでと同様に世界を舞台にその限界を追求することは、アストンマーティンの本質そのものです。私たちはこうした挑戦を避けることなく、積極的に受け入れています。そしてフェルナンド、セバスチャン、ルーカスという 3 人の偉大なチャンピオンとともに、2027 年ダカール・ラリーで強力な挑戦を仕掛けます」

アストンマーティン・レーシングの耐久 GT レースにおける長年のエンジニアリングパートナーであるプロドライブは、Dreadnought のラリーレイド車両の開発・製造を手掛け、アストンマーティンのダカール・ラリー参戦プロジェクトの実現に不可欠な役割を果たしてきました。大会では 3 台すべての車両のレース運用を一手に担います。プロドライブは 40 年にわたり、数々の勝利を収めてきたプロトタイプカーやラリーカーを製造してきました。その豊富な経験と実績は世界的に高く評価されています。FIA 世界ラリー選手権（WRC）で数々の輝かしい実績を残してきたプロドライブは、2020 年代に入ってからダカール・ラリーに継続して参戦しています。過去 5 年間で 3 度表彰台に上り、今年は自社で設計・製造した車両で総合優勝を果たしました。

プロドライブの会長、デビッド・リチャーズは次のように述べています。「ダカール・ラリーは、モータースポーツの中でも屈指の過酷さを誇るレースです。今回の参戦プロジェクトにおけるアストンマーティンの目標は、当初から明確でした。それは、世界で最も過酷なモータースポーツ大会でトップ争いができる車両を開発することです。アストンマーティンのビジョンと、プロドライブがラリー、耐久レース、ダカール・ラリーで培ってきた経験を融合させることで、強固な基盤を築き上げました。卓越したドライバー陣と高い技術力を誇るエンジニアリングチームの力を結集し、Dreadnought がこの壮大な挑戦に臨む姿を楽しみにしています」

チャンピオンたちの集結
アロンソは今回の参戦で 7 年ぶりにダカール・ラリーに復帰します。グランプリ通算 32 勝を誇るアロンソにとって、ダカール・ラリーは今なお果たすべき目標が残る舞台です。2027 年もアストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1®チームで戦うために長期契約を延長したアロンソは、これまでもモータースポーツの最高峰に位置する数々のレースに果敢に挑んできました。ル・マン 24 時間レースでは 2 度の優勝を果たしたほか、インディアナポリス 500 にも参戦し、デイトナのロレックス 24 時間レースでも優勝を飾っています。アロンソにはラリーレイドの経験もあり、2020 年のダカール・ラリーではトヨタ・ハイラックスを駆って総合 13 位でフィニッシュしました。アロンソは、同じスペイン出身のマルク・コマ（スペイン）をコ・ドライバーに迎え、Dreadnought で参戦します。ダカール・ラリーの二輪部門で 5 度の優勝を誇るコマは、アロンソの初参戦時にもコ・ドライバーを務め、第 8 ステージでの 2 位獲得に貢献しました。この結果は、砂漠を舞台とするレースで 2 人が発揮できる高いポテンシャルを示しています。

2 度の世界チャンピオンに輝いたアロンソにとって、ダカール・ラリーは過密な 2027 年の F1 シーズンの幕開けとなります。大会後にはプレシーズンテストが控え、さらに史上最多となる 10 戦のスプリントレースを含む全 24 戦の厳しい F1 シーズンが続きます。

「アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1®チームで F1 への参戦を続けると決めた後、ダカール・ラリーへの挑戦についてじっくり考えました」とアロンソは語っています。

「最終的に、答えは明快でした。この挑戦を全力で受け止め、同じ年に F1 とダカール・ラリーの両方に挑みたいと思ったのです。2020 年のダカール・ラリーは、これまで参戦したレースの中でも特に過酷で、同時に大きな喜びを感じられる経験でした。私はダカール・ラリーというレースと、そこで卓越した技術を発揮するスペシャリストたちに深い敬意を抱いています。再びマルクと組めることは、私にとって非常に大きな意味があります。アストンマーティン、プロドライブ、セバスチャン、ルーカスとともに、素晴らしいチームを結成することができました。F1 が私にとって最優先であることに変わりはありません。それでも私はレーシングドライバーです。こうした挑戦があるからこそ、レースで戦うことに情熱を感じるのです。私たちが何を成し遂げられるのか、今から楽しみにしています」

ローブもまた、アロンソと同じ開拓者精神を備えています。WRC で 9 度の世界王座に輝いたローブは、今なおラリー界を代表するレジェンドの一人です。ローブは長年にわたりダカール・ラリーに参戦し、初の総合優勝を目指して挑戦を続けています。これまでにステージ優勝 28 回、総合表彰台 5 回（うち準優勝 3 回）を記録し、10 回の出場で 7 回の完走を果たしています。コ・ドライバーは、ベルギー出身のファビアン・ルルカンが務めます。

「ダカール・ラリーでの優勝は、私にとって非常に大きな意味を持ちます」とローブは語っています。「これまで何度も優勝まであと一歩のところに迫ってきました。だからこそ、優勝を果たすまで挑戦を続ける強い意欲があります。アストンマーティンの一員として Dreadnought でこの挑戦に臨めることは、素晴らしい機会です。アストンマーティンには、モータースポーツにおける特別な歴史があります。そのアストンマーティンがダカール・ラリーで初優勝を果たすために力になれることを、大きな誇りに思います」

「ダカール・ラリーでは、速さだけでは勝てないことが幾度となく証明されてきました。厳しい局面を乗り越え、車両の状態を適切に管理し、最後まで集中力を維持しなければなりません。コ・ドライバーのファビアンに加え、フェルナンド、ルーカスとともに、チーム一丸となってこれまで培ってきた経験を参戦に向けた準備とプロジェクトの推進に生かしていきます。新しい車両にはまだ理解を深めるべき点が多く、エンジニアたちとともに取り組む開発作業を楽しんでいます。目標は、スタートラインに立つ時点で優勝を争うために万全の態勢を整えておくことです」

36 歳のモラエスは、2023 年のダカール・ラリー初参戦で見事総合 3 位に入り、その後も毎年参戦を続けています。2025 年には BP アルティメット・ラリーレイド・ポルトガルで優勝するなどの活躍を見せ、FIA 世界ラリーレイド選手権の年間王座に輝きました。コ・ドライバーは、スペイン出身のパブロ・モレノが務めます。「キャリアの新たな一歩として、アストンマ

ーティンに加わることを大変誇りに思います」とモラエスは語っています。「アストンマーティンは、モータースポーツにおいて輝かしい歴史を築いてきました。そのアストンマーティンを代表してダカール・ラリーに参戦できることは、私にとって特別な意味があります。Dreadnought の参戦プロジェクトに携われることに胸が高鳴ります。チームが優勝を争える体制を築くために、自分も力を尽くしたいと思っています」

「ダカール・ラリーは、モータースポーツの中でも屈指の過酷さを誇るレースです。成功を収めるには、入念な準備とチームワーク、そして安定した走りが欠かせません。経験豊富なセバスチャンとフェルナンドが加わることは、チームにとって大きな強みとなります。互いに学び、刺激し合うことで、それぞれが最高の力を発揮できると確信しています」

「ここ数年で多くの経験を積んできました。その経験をアストンマーティンで生かし、自らも成長を続けながら、チームが目標とする成績を達成できるよう貢献したいと考えています。これから取り組むべきことは数多くありますが、このプロジェクトを成功に導くために全力を尽くします」

アストンマーティンの Dreadnought は、2027 年 1 月 9 日にモロッコで開催されるダカール・ラリーのスタートラインに立つ予定です。初日はポルトガルのファロのルーレで 129km のプロローグが行われ、その後モロッコへと舞台を移します。大会は翌日、3 万席を誇るアルガルヴェ・スタジアムを起点に本格的に幕を開け、1 月 10 日には 300km のオープニングステージが行われた後、地中海を渡り、1 月 12 日からモロッコでレースが続行されます。プロローグに続く全 11 ステージ、総距離 6,805km を経て、1 月 23 日にマラケシュでフィニッシュします。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。
https://we.tl/t-sV1F3EXLeO2HOc7t

**アストンマーティン・ラゴンダについて**

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBXに加え、同社初のミッドエンジン・ハイブリッド・カーであるValhallaなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つというプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラゴンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。

https://media.astonmartin.com/

株式会社ブレインズ・カンパニー
加藤 七瀬：070-7611-6970　中井 美里：070-2238-5865
astonmartin-pr@pjbc.co.jp